



①②③昭和53年に発生した宮城県沖地震で被災した、家屋やブロック塀。現在、本市では耐震診断や耐震工事への助成を行っている(担当:建設課 ☎22-1326)。同じ悲劇を繰り返さないためにも、市民総ぐるみでの取り組みが必要だ。



月12日に発生したマグニチュード7.4、当時の震度で5クラスの大地の揺れが、2人の尊い生命を奪い、多数の市民の財産を破壊したことは、まぎれもな

Act3. 忍び寄る脅威

宮城県沖地震発生への備え

「今後30年以内に、宮城県沖を震源とする震度6程度の地震が、99%の確率で発生すると予測されています」テレビや新聞、広報紙などで何度も登場している言葉だ。1978年の発生から31年という歳月が流れた今、あの日の記憶が薄れつつあることを責めるのは、誰にもできない。しかし、1978年6

い事実である。大切な人を失った者の悲しみは、計り知れない。次の宮城県沖地震が、想定震度を上回らないという保証は、残念ながらない。想定震度を上回る地震が発生したとき、要援護者の生命を守る大きな力となるのは、地域と地域の民生委員の力である。個人が地域の一員として活動するには、まず自らが、そして自らが愛する家族が安全でなければならぬ。まずは家庭レベルで、一人ひとりが備えを忘れずに。災害が発生した際、電気や水道が使えないことを考えると、3日分程度の非常食などの備蓄が必要だ。また、避難場所や避難経路を確認しておくことも大切。家具の転倒防止や住宅の耐震診断も有効な自助策となる。

いつ起こるか分からない不安。強大で、なおかつ姿の見えない敵の影が、ヒタヒタと忍び寄る。防災への取り組みは、尊い生命を守る取り組みである。そして、市民が血と汗を流し、長い時間をかけて築いてきた財産を守る取り組みでもある。家庭レベルで、地域レベルで、そして市全体で取り組んでいきたい。極限状態の中でも、いたわりと助け合い、励まし合いの心が、押し寄せる絶望を打ち砕くように。(了)



大規模な土砂災害が発生し、1名の尊い生命が失われた緑が丘地区

つい一時間ほど前に散歩で歩いた所とは思えない、まったく別の光景が私の目前に広がっていた。私は、決してこの光景を忘れることができない。



◀毎年1月初めに行われる消防出初式には、消防団員約650人と小型動力ポンプ積載車が集結。写真は佐藤賢一団長と、任命権者の風間市長。市民の生命・財産を守るため、全力を尽くす。

◀白石市消防団の団旗は、日本の象徴・桜を中央に配置。郷土愛護の精神と潔さを表現したものと云われる。

Act2. 共助と公助の接続

安全・安心を確保するために

ここ10数年来、大規模地震が頻発した日本列島。特に、2003年7月の宮城県北部地震が、その後の防災行政に大きな影響を与えたと言われている。本市でも防災に対する取り組みを強化してきた。防災計画の策定や洪水ハザードマップ・地域別防災マップの配布、多数の民間企業・団体との防災協定がそれだ。大規模災害発生時には、協定を締結した企業から食料品や衣類、レンタル仮設トイレなどが届くことになっている。物資面の援助だけでは足りない。本市には、佐藤賢一団長の下、時には地域内で、時には地域を問わず市民の生命・財産を守る任に着く、約650人の消防団員がいる。災害発生時のエキスパートと

して災害現場を経験した、心強い存在だ。女性の力も大きい。市内には7、100人を超える婦人防火クラブ員があり、災害発生時には各地域内で非常食の炊き出しなどの活動を行う。行政が災害対策本部の機能充実など、全体的な防災体制の構築と被災地の支援行動を実施する一方で、各地域では自主防災組織を中心にした、避難・救助の組織行動を行い、警察・消防機関とも連携し市全域で体系的な防災活動を行う。これが理想だ。そのためにも、地域の自主的な防災体制(共助)の整備と、公助との接続が何より求められる。ここ数年来、自治会が独自の防災マップを発行したり、救

命救急講習を開催したり、大学機関などと連携して防災ワークショップを開催したりするなど、住民レベルでの防災意識の向上が見られた。この流れを加速させていきたい。どんなに行政が取り組みを進めても、「これで万全」ということはない。市の備蓄は、あくまで応急分であり、応援協定が発動されるような災害時には、交通網の寸断が予想され、到着に時間がかかる可能性も否定できない。真に安全・安心なまちになるには、住民側の理解と協力がどうしても必要なのだ。



▲2002年3月発行の「蔵王山火山防災マップ」。宮城・山形両県、白石市、山形市、上市市、蔵王町、七ヶ宿町、川崎町が共同で発行。
▲2006年2月発行の「白石市防災マップ」。地域別に作製し、市内全世帯に配布された。前年8月には「洪水ハザードマップ」も作製されている。
▲2006年2月に策定された「白石市地域防災計画」。震災対策編、風水害等対策編、資料編からなる。総ページ数は800ページ近くにもなる。現行の防災活動のガイドライン。

1996年	8月11日	1996宮城県北部地震発生、最大震度5(3回発生)、鳴子町(現大崎市)に甚大な被害が発生
1998年	9月15日	1998宮城県南部地震発生、仙台市で震度4を記録
2002年	3月	宮城・山形両県と、本市を含む3市3町が「蔵王山火山防災マップ」を共同で発行
2003年	5月26日	三陸半島地震発生、石巻市で震度6弱を記録
	7月26日	2003宮城県北部地震(宮城県連続地震)発生。最大震度6弱を超える地震が1日のうちに3回発生
2004年	後半	田町自治会が自発的に「田町地区防災マップ」を作製
2005年	6月12日	白石第一小学校で白石市総合防災訓練を実施
	8月	洪水ハザードマップ作製、該当地域の住民に配布
	8月16日	2005宮城県南部地震発生、川崎町で震度6弱を記録
	10・11月	全住民を対象とした防災懇談会を市内113自治会で開催
2006年	2月	防災マップ作製、全世帯に配布
	2月	白石市地域防災計画策定
	3月1日	「白石安心メール」配信開始
	6月8日	みやぎ生協との間で物資を優先供給する災害協定を締結
	6月26日	国土交通省七ヶ宿ダム管理所との間で、放流警報設備を利用した災害情報伝達支援協定を締結
	7月4日	株ビッグレンタルとの間で、移動式トイレや発電機などのレンタル機材提供の災害協定を締結
	8月22日	越河地区が本市初となる自主防災連合会を結成
	9月1日	白石市自主防災組織補助金交付制度開始
	9月17日	南町自治会が東北大学と「地震防災ワークショップ」を共催
	10月15日	越河小学校などで市・県共催の土砂災害防災訓練を実施
2007年	6月10日	斎川小学校で白石市総合防災訓練を実施
	7月15日	台風4号接近の影響で、東北部に激しい豪雨。小原地区での大規模地滑りなど、市内各所に甚大な被害が発生
	9月1日	白石市消防団協力事業所表示制度開始
	10月17日	白石市建設職組合や(社)宮城県建築士会白石刈田支部との間で、危険家屋の危険度判定などの災害協定を締結
2008年	2月8日	ヨークベニマルとの間で物資優先供給の災害協定を締結
	2月10日	自主防災組織リーダー養成研修会を中央公民館で開催
	2月16日	白石工業高校、白石市、(社)宮城県建築士会白石刈田支部共催の防災市民講座を開催
	3月6日	本市と白石市福祉施設連絡協議会に加盟する7法人1組合が、要援護者の受け入れなどに関する協定を締結
	5月14日	東北電力株白石営業所との間で、電力設備災害復旧に関する協定を締結
	6月2日	本市、白石市自治会連合会、白石市民生委員児童委員協議会、白石市社会福祉協議会が、災害時要援護者台帳および災害福祉マップに関する4者協定を締結
	6月8日	大平小学校で白石市総合防災訓練を実施
	6月14日	岩手・宮城内陸地震発生。栗原市で震度6強を観測するなど、県北地域に甚大な被害が発生
	9月13日	東中学校3年生が学区内を網羅した防災マップを作製し、文化祭で発表
	9月25日	中央公民館で災害ボランティアセンター(災害VC)体制整備に関する研修会を開催
2009年	2月8日	自主防災組織リーダー養成研修会をいきいきプラザで開催
	2月16日	2008年6月2日に4者協定を締結した災害時要援護者台帳および災害福祉マップが完成し、共有式を開催